

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072200443		
法人名	医療法人 緑風会		
事業所名	グループホーム 桃源郷		
所在地	長野県東御市祢津323-3		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	平成22年5月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071900050&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関前には利用者様がゆったりとくつろげる、周囲がウッド調の空間があり、青空の下、そこでお茶をしたり、日光浴を楽しんだり、団らんの場が設けられている。湯の丸山・烏帽子岳を背に遠く立科山・八ヶ岳を望み、周囲は豊かな田園地帯を映し出している。建物内は全てバリアフリーで中心にホール・居間・台所(IH)が設けられており、困むように1人1室の居室が設備されている。職員もそれぞれの立場でケアサービスの向上に誠意をもって取り組んでいる。又、利用者様の能力に応じた調理・配膳・食器の後片付け・食器洗い・洗濯物干し・洗濯たたみ・園芸・作物作り等と一緒に出来るような環境を作り出している。レクリエーション(風船バレー・カラオケ・かるたとり・言葉あそび・塗り絵・計算ドリル・ラジオ体操等)を実施し、地域のボランティアの方々も頻りに来所して利用者様の心の拠り所となっている。家族・地域の方・ボランティアとの交流を年1回開催し好評をえている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人には、道路を挟んで内科・精神科・歯科、週1回非常勤の先生による外科の診療と入院が出来る診療所と、老人保健施設があり、状態に変化が生じても24時間態勢で応じて頂ける安心出来るホームである。ボランティアも大勢見えたり、地元の保育園・小学校との交流、東京の都文館の中学生が毎年利用者との交流も兼ねボランティアに二日間訪れ、落語の披露をしてくれたり、硝子磨き・草取りは利用者と一緒にするなど外部との交流が盛んで、利用者も楽しみにされている。慣れた手つきで作られたしめ縄や繭玉も要所々に飾られており、調査日は小正月の日に当たり、全員でどんど焼きが行われ、繭玉で作ったおしるこを作るなど、季節の行事は大事にされている事が窺えた。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出来ている。 家族・利用者等の見える場所に掲示しており、月1回の会議・気がついた時はその都度話し合っている。	地域のボランティアを受け入れる中で、地域との関わりを大切に、地域密着型サービスである事の理念をホームの真ん中に大きく掲げ、管理者と職員は理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来ている。 地域のボランティア・区・小学生等の人達が日常的に訪問してくれている。	ホームでは、保育園の行事や小学校の運動会に招かれたり、小学生による子供獅子舞の来所、地域ボランティアは毎月見える等地域とのつき合いは日常的に行っている。特に餅つき大会では、二つのホームの家族と日頃のボランティアが参加され大勢で行われた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしている。 地域の人(区長・民生委員等)とGHの運営に関して報告をして問題点・支援など意見を交換している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。 地域の人(区長・民生委員等)とGHの運営に関して報告をして問題点・支援など意見を交換している。	同じ敷地内には法人が経営するホームが二つあり、2ヶ月に1回合同で地域の区長・民生委員・地域包括支援センター・利用者・利用者家族・法人の理事である医師などの参加によりホームの理解と地域の協力について意見交換が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。 3/30市町村・区長・民生委員・消防部長・家族代表の方々に現状を報告・問題点を提起してもらった。	ホームの周りが法人の職員の駐車場になっており、車の出入りが頻繁であり、利用者が安全に快適に外の空気が吸えるように、ホームの裏庭にフェンスで囲い、庭の桜並木を見ながら焼き肉や日向ぼっこが出来るような環境づくりを、市関係者などとも話し合い取り組んだ。	

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 帰宅願望の利用者はなるべく外の空気にふれるようにして職員が散歩の機会をなるべく多くとるようにしている。又、その人の生活暦を理解して介護の工夫をしている。	身体拘束については管理者及び職員は理解しており、協力医院の精神科医師からも日々身体拘束排除の為の指導を受けており、ホーム全体で実践に取り組んでいる。	身体拘束排除について理解はしているが、マニュアルは作成されておらず、確認する為にもマニュアル全体を整備し、内部研修はもとより外部研修への参加されるなどケアの質の向上に取り組まれる事が望ましい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。 「高齢者虐待を考える」の冊子など職員が読んで理解している。利用者それぞれに対応している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。 社協、行政書士等と利用者との連携を取り、財産上の問題等に職員と話し合い活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。 特に介護報酬の改定時においては個々の利用者家族より同意書を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。 年に1度運営委員会・夏のイベント・秋の収穫祭において家族も同伴するので意見をさりげなく聞き取りしている。ボランティア等も記してもらっている。	2ヶ月に1回開かれている運営推進会議の内、2回は家族会を兼ねて行われており、多くの家族の出席があり、意見を出して頂いている。面会も頻繁にあり、要望など気軽に言って頂けるよう雰囲気作りに心掛けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。 年度当初において職員の個々の今年の目標を定めている。意見が早急の場合はその都度対応している。	月に1回定例会を開き職員の意見交換をしている。また、管理者にはいつでも相談すると対応している。2週間に1回法人全体の幹部による早朝ミーティングを8時から1時間開き、それぞれからの報告と、日々の意見の反映に努めている。	

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。 評価表(自己評価・責任者評価)を配布して労働意欲の向上を図っている。又、今期の目標を個々に定めて鋭意努力しているところ。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。 今年も他介護施設に訪問研修に行き、それぞれのレポートを出してもらい介護の全般を総括をした。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしている。 同上		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 入所時、在宅だとフェースシート、病院等いずれも入所前に本人と直接会い不安の解消に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。 入所する前に家族・本人に來所してもらい、体験入所(朝～1日の流れ・雰囲気・食事を一緒にとって頂き)してもらい問題・要望等お聴きして不安を解消している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。 事前に話し合い理解している。 同上。		

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。 職員と本人は1日の仕事の中その人の能力に応じた食事作り・後片付け・洗濯物の仕分け・ホール清掃・シーツ交換等一緒に協力しあい行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。 日々の変化、体調不良等生じた場合密に連絡して共に解決に向かって努力している。3者が一同に集まる場を設けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。 施設は何時でも開放をモットーにして友達や生活歴を職員が大切に奨励している。	墓参りにお連れしたり、家族に葉書や絵手紙を出したり、入居前からの友人が面会に来た際には希望により一緒に夕飯を食べてゆっくり過ごして頂くなど、馴染みの関係が続くよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。 利用者同士の役割を各々が能力によって理解しているのでレク(カルタとり、ゲーム等)も孤立しないように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。 入院・在宅サービス利用者などについても可能な限り、その後の利用者・家族がどのような生活・入院状況をしているのか確認している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討している。 本人の生活歴を大事にして、家族とも相談してどうしても行きたい場所等希望に応じている。時には職員が目的地(自宅等)につれていくこともある。	編み物をしたり、カラオケをしたり、やりたいこと・行きたい所など出来る限り希望に応じた生活が出来るよう、利用者の生活歴を本人・家族・友人などから情報を得て記録し、日々の生活に活かせるよう心掛けている。	

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。 家族・近い介護人・在宅からだケアマネジャー等から経過を聞き、本人の生きてきた経過を理解し記している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの業務日誌・チェック表によりその日の報告・連絡を密にして現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。 申し送り事項があればそれを活かし、医療機関・介護関係者・家族等の希望・又職員の意見等を考慮して介護計画を作成している。	介護計画は、定期的にモニタリングを行い見直しされている。職員が記載した「見直し、気付きシート」と、家族の面会時に聞いた希望などをケアプランの見直しに反映している。	介護計画の見直しを行ってはいるが期間が長い為、利用者は高齢であり身体的機能低下も見られる事から3ヶ月～6ヶ月で見直しを行い、関係者の意見を反映させた介護計画の作成をする事が望ましい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。 25と同じ。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。 業務日誌・チェック表を見、ケアの方法等新しい事も取り入れて工夫している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。 利用者が作成した生活品(エコたわし)・におい袋(ラベンダー)を近くの小学校・保育園に配布をして共に交流を図っている。		

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。 協力病院に本人の訴え・職員の気付きに対応して連絡を取り、受診表に主症状を記し職員が誘導して診察している。	法人の診療所には精神科・内科・歯科があるため入居時に確認をし主治医にしている方が殆どであり、2週間に1回の往診により受診している。随時の受診もホームで支援をしている。入居前の馴染みのかかりつけ医を主治医としている方もおり、その場合には家族に付き添いをお願いしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。 本人の訴えを医療と連携して訪問看護師が点滴にきている。又月2回ほど訪問看護師が来所している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。 協力病院はもとより、総合病院へ緊急入院した利用者も病院のケースワーカーとも連絡を取り、現地に赴き相談にあたっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。 家族には入所時に医療上(緊急時)のことで、ここで出来ること家族にインフォームドコンセントをしている。	法人内には訪問看護・老人保健施設・診療所が真向かいにあり、重度化した場合にも法人として対応は可能で、契約時に説明をし老人保健施設の申込書にも記入をして頂いており、機能低下した時はその都度希望を聞き状態に応じた支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身につけている。 法人全体でその状況予想して月1回教育・研修委員会でテーマを決め褥瘡・インフルエンザ等全員で話し合っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。 防災訓練を年2回実施し、地域の区長・消防部長・等と連携を取り何かあったら全住民が協力して下さるようになっていく。	年2回、6月と10月に利用者と屋外避難訓練を行っている。10月には夜8時から緊急通報訓練も行っている。ホームのボランティアで利用者とも顔馴染みの地域の方なども参加して行われており、地域の協力体制が窺える。	

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしている。 入所時はその人の生活暦が解らない事もあるがグループ内で寄り添う介護の中で隠れた生活の表出に心掛けをして誇りや、人格等を大事にしている。	一人ひとりの特徴を把握し、トイレ誘導や入浴拒否など気を損ねないよう誘いかけ支援をしている。声掛けも寄り添いながら行っている。ボランティアも地域の方が多く見える事から、利用者のプライバシーの確保についてはホーム全体で取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 いくつかのイベント・ボランティア・地域の行事又、施設の行事で出される食事等においても個人の選択を重視して希望をかなえたり、配食されている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。 運動(体操1日に4回)・施設内歩行訓練・食事の摂取時間についても本人のペースに合わせゆったりした時間配分に心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 家族から着替え・衣服(下着も含む)などお預かりしているので週2回の入浴の際には更衣をしている。季節ごとに職員も気をくばり相談しながら着衣をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	支援をしている。 それぞれの能力に応じて役割を配分して食事の準備をしている。全利用者がなごやかな中で準備してもらうことも用意して工夫している。	外食を年2回行っている。つつじ祭り・紅葉狩りには法人の通所サービスの車を利用しドライブを兼ね外食を楽しんでくる。正月の餅も喉に詰まらない餅の工夫をし、雑煮も楽しめるなど季節が感じられるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援をしている。 入所者は疾患もそれぞれなのでその人に応じた摂取方法で対応しており、定期的に管理栄養士に確認をしている。		

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしている。 1日1回(夜)義歯が大部分なので全員口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。 まず声掛けを多くしてこまめに誘導して、意思の伝達、本人の疾患等を理解したうえで段階的に排尿・排泄行為に結び付けている。	トイレ誘導していたが、自分のペースでトイレに行かれるようになり、リハビリパンツの使用量が減った利用者もいる。また、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けなどにより支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。 水分を1日5回・1500mlを目標に摂取に心掛けている。又脳疾患の予防、循環器疾患にも十大な影響もするので繊維食品にも考慮している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人の希望を取り入れている。 入浴は1Wに2回ですが個々の希望を取り入れてその人なりのスタイルで支援している。 (例、背中洗は無理なのでお願いとか)	基本的には週2回の入浴としているが、体の状態によりその都度応じている。夏はシャワーを毎日利用するなど、清潔を保つよう支援している。入浴拒否する方も職員が気を損ねないよう誘導し気持ちよく入浴して頂いている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。 眠れないような場合、不安時は職員がホールで1対1で本人の言い分を聞き落ち着かせ安心させるよう傾聴に心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。 症状に応じてかかりつけ医と相談をして薬の投与をしている。用法・用量・副作用等についても文献なども用いてそれなりに理解をしている。		

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援をしている それぞれの能力に応じた役割を提供できる場を設けるように職員が工夫している。 (食器洗い・食材刻み・お茶くみ・手芸等の役割・バイキングによる選択メニュー)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。 なるべく戸外に出て頂く様に建物の周囲を工夫して日光浴・戸外でのお茶・団らんの場を確保した。社会性を会得することも大事なので、年に数回「回転寿司」の計画も実施した。	ホームの周りは田園地帯で静かなところで、夏は毎日散歩に出掛けている。近くの小学校や保育園の運動会に招待され皆で参加した。また、個々の希望も出来る範囲でお連れするなどの支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。 家族との話し合いの中で僅かな所持金をもっているので本人の要望で家族に連絡をして用立てている。時には施設の買い物にスーパーに同伴することもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。 利用者が家族・関係者に電話・手紙等したい時は気持ちよくとり繋いでいる。ときには自宅まで車で同伴することもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。 施設内は子供たちが訪問した時の写真だとか野外レクの絵とか、だんご作り、七夕祭り、折り紙の作品等その時の季節感、自分たちの生活の行動跡を掲載してある。	建物の中心は中庭があり、中庭に面した廊下は回廊式で冬の外出が少ない時でも「365歩のマーチ」の音楽に合わせ歩いたりする事で、麻痺が少しずつ回復するなど共用スペースを有意義に活用している。畳の居間にはソファがありテレビを見たり、編み物をしたり自由に過ごしている様子が窺えた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫をしている。 ホール・居間にて利用者同士が話し合い「何々をしましょう」とかかってカルタとりバツゲームなどをしている。備品・道具など利用者の要望に応じている。		

外部評価結果(グループホーム桃源郷)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。 今までの生活暦を考慮してなじみのタンス・仏様も安置されている居室もある。	馴染みの机・カラオケ・仏壇など思い出の物が持ち込まれ、それぞれ居心地の良さが窺えた。お部屋の名前も理事長が考えて書いた自然の中から生まれたお部屋名が掲げられている。利用者によっては馴染みの物を目印にするなどの工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。 利用者各々が容易に手が出せたり、掲示を大きくしたり、導線の位置を工夫したりして生活が送れるように支援している。		